

令和5年度
森林・山村多面的機能発揮対策交付金

関係人口創出・維持タイプ

標津の森を守る会



関係人口創出・維持タイプの取り組み

内容

- 1.活動組織の概要
- 2.ポー川自然史跡公園
- 3.活動内容
- 4.過年度の関係人口との交流状況
- 5.令和5年度 関係人口創出・維持タイプ実施状況
- 6.課題・問題点など

2023年12月13日
オンライン開催

標津の森を守る会

会長 : 田村憲夫

事務局 : 井南 進

事務所所在地 : 標津郡標津町

標津の森を守る会活動位置



● 実施場所

● 標津郡標津町字伊茶仁

● 57番地1

● 60林班08・09小班

● 所有者: 標津町

● 管理者: 標津町教育委員会

● 担当 : ポ一川自然史跡公園

● 1. 活動組織の概要

- ・「標津の森を守る会」は、森林・山村多面的機能発揮対策交付金の申請をするため、平成27年1月に設立。
- ・会の目的： 標津の森を守る会の構成員による森林・山村の多面的機能発揮のための活動を通じ地域の活性化を図ることを目的とする。
- ・取組内容・背景： 標津町が管理するポー川自然史跡公園内の420haの森林は、未整備のため、風倒木、枯損木、笹、雑草等が蔓延し荒廃してきました。このため標津町の住民(当初19名)が標津の森を守る会を設立し、公園内の森を整備し、自然体験学習、森の生物学習、自然観察会を開催することにより、標津町と都市との交流人口の拡大、及び地域の活性化を図る必要があった。また2020年に日本遺産として登録された世界最大級の竪穴住居郡の周辺を整備し、公園内の環境を整えることにより1万年の歴史文化の教育や体験を行うことができ、地域住民の絆を深める活動の場所として、地域全体の活性化を図ることが出来る。



森林・山村多面的機能発揮対策交付金
実施場所 面積5.5ha
60林班08・09小班
平成29年より実施

森林・山村多面的機能発揮対策交付金
実施場所 面積 4.8ha
60林班01・14小班
平成27年より実施

標津町歴史民俗資料館

国指定
天然記念物標津湿原
面積 212 ha

カリカリウス遺跡

ポー川史跡自然公園
面積 640ha

要整備区域
アカエゾマツ樹林帯
面積 約150 ha

その他区域
倒木・枯損木処理と植樹
(ミズナラ・シラカバの苗木)
予定面積 約 150 ha

3. 活動内容

- ・ 平成27年より、活動推進費・地域環境保全タイプ
61林班23・24小班、人工林の間伐・下枝払
- ・ 平成30年より、活動推進費・地域環境保全タイプ・森林機能強化タイプ
60林班08・09小班草刈
- ・ 令和3年より、森林資源利用タイプ・関係人口創出・維持タイプ・森林機能強化タイプ
長野県生坂村中学校受け入れ
- ・ 令和5年度、森林資源利用タイプ・関係人口創出・維持タイプ
相模女子大学・長野県生坂村中学校・大阪阪南大学

活動内容

地域環境保全タイプ

ササ・雑草刈取作業 同一箇所で作業前後の比較

作業前

作業後



活動内容

森林資源利用タイプ 5.5ha
森林機能強化タイプ 200m



工種	④	総画
撮影月日	9月18日	
立割	60-14	下枝払い

アカエゾマツ下枝払



風倒木処理

工事名	設計書	現場
工種	A1	
位置	倒木処理	
設計寸法	草刈	
実測寸法		
	6月6日	



工事名	総画
工種	
位置	B
設計寸法	完了
実測寸法	
	11月22日

アカエゾマツ間伐
平成27年当初



ササ刈

工事名	平成27年度 森林・山地区域的機能強化対策事業
工種	A-1 森林保全 雑草木の刈払 草刈倒木
撮影月日	6月7日 公園整備
位置	
設計寸法	草刈
実測寸法	
担当者	

活動内容

散乱している枝をチップーで処理



燃料用薪を作り活動資金とする



4. 過年度 関係人口創出の取組

標津町中学校と長野県生坂村中学校との交流事業

令和3年 長野県生坂村
長野県生坂村中学校



令和4年 長野県生坂村中学校



過年度の関係人工との交流状況

平成28年 神奈川県相模女子大学、神奈川県立健康福祉大学 下枝払い体験



令和3年大阪 阪南大学

平成30年 地元小学校森林体験



過年度の関係人工との交流状況

その他の交流状況



(上) 巣箱作り

(下) 薪切り体験



5. 令和5年度 関係人口との交流状況

長野県生坂村中学校 19名 標津町中 森林教育実施



大阪阪南大学森繁教授他9名



令和5年度 関係人口との交流状況

令和5年8月28日 15名

相模女子大学 ポー川公園森林整備事業
ミズナラ苗木採取

森林学習



ミズナラ苗木植樹

完了後参加者集合



関係人口創出・維持タイプ

① 関係人口創出の取組に至った経緯

- ・過年度より近隣住民、及び教育機関との協議により、近隣町の幼小中学校を対象に森林体験教育を実施していた。

② 関係人口創出の取組

[概要・具体的取組]

- ・長野県生坂村中学校と標津町中学校の生徒を、多面的機能発揮対策事業の森林資源利用タイプ作業に参加し、体験教育を実施する。

[効果、メリット]

- ・標津町は根室海峡の海に面した街で、酪農と鮭漁を中心とした地域であり、豊かな森を育てることが、豊かな海を育てることにつながる等、体験教育により子供たちに伝えることができた。
- ・今年度より、双方の中学校が、お互いに修学旅行の行き先とすることとなり、標津にとっても経済的な効果も発生する。

[内燃以降の取り組み]

- ・現状では、今年度のような森林教育的な内容で、近隣の市町に働きかけ、一般の人も含めて、関係人口の拡大に努めたい。

8. 課題・問題点について

[課題]

・会員の高齢化

組織の発足当初は19名程の会員が活動していたが、現在は実稼働が出来る会員は12名ほどになってる、常に募集はしているが、新規会員の確保が大変。

・安全管理

全体の安全教育の他に、作業前のKYKを行なっているが、枝や笹につまずく等、ヒューマンエラーによるヒヤリハットがある。

[関係人口創出・維持タイプに関する問題点]

・令和4年度の関係人口創出・維持タイプの実施について

採択申請時において、関係人口の参加者氏名の提出が求められていたが、詳細不明のため申請を断念した、団体名のみでの申請でも良いのではないか。

・安全管理対応

実際の林業体験を実施するには、保護帽の準備他の安全対策が必要となるので、森林教育程度の関わり方となる。

・経費の不足

関係人口創出・維持タイプの交付金額が少ない、また関わる施設の整備等の助成額が1/3以内で、不足分については会の持ち出しとなる。

ご清聴有難うございます

- 会員集合(現在16名が活動に参加している)



- 標津の森を守る会